

アンケート：第2回これからの学生生活をともに考え、見守る研究会2022年7月11日開催

あなたは？	報告(山形大学松坂准教授)をお聞きになって感想や意見などありましたらお書きください。	委員ディスカッションや全体ディスカッションをお聞きになって、感想や意見などありましたらお書きください(大学生協への要望や提案、社会に対する要望や提案などもこちらで)	本日の研究会の運営(ライブアンケートも含む)について、お気づきのこと、改善点などありましたらお書きください	次回(テーマ：授業関係)報告をお聞きになりたいようなことなどありましたら、お書きください
マスコミ	うちの大学があんなに熱心就活の指導をするようになったこと辞退に驚いた。	昨年5月から就活を始め、今年の5月に内定なんて、1年間も就活をやってつらいのかと思った。そして、ダラダラやらせる企業側に文句はないのかと思った。	学生さん中心のお話なんですね。以降は変に質問を書かないようにします。	
学部2年生	面接で学生がアピールする点と企業側が重視する内容が異なっており、学生の経験から人柄を掘り出しているためにいろいろな質問をすると話されたことが自分にとっては新鮮でした。こうした企業側の意図を知ること、面接による対話を楽しむものであるように感じました。	自分は周りのことばかり気にして、みんなの成長を見ると自分がいなく感じてしまうことが多いのですが、委員ディスカッションの中で松坂さんが分析においては自分への絶対評価を見ることで小さな成長が分かるのだと理解しました。自分を否定ばかりしないでしっかりと振り返っていきたいです。		
学部2年生	今回の報告結果から、学生が思う自己アピールポイントと企業側の求めるアピールポイントには若干の乖離がある事が分かりました。私も、例にもれず学生側の人間でしたが、会を通して聴いているうちに、自分が思う「自分が頑張ったポイント」はアピールポイントになる、という事が気づいたポイントだったかと思えます。	あまり今回の話題では言及がされませんでした、大学院進学を考えるにあたって、修士で卒業し就職するかもしれないしは博士で卒業し就職するかという事について双方のメリット、デメリットを知りたいと思いました。	特にはありません。	授業のほとんどが講義の内容についていけず、後から復習をしていくので精一杯です。他の大学生の皆さんも同様に授業内容には頭を抱えていることも多々あると思うのですが、授業に追いついていけない、追いつきたいけれど心が折れてしまっている、というような学生はどれほどの割合でいるのでしょうか。
学部3年生	就活の実際について知る機会がほとんどなかったので学びになりました。学生はどうしても「何か大きなことをしないと」という気持ちがあると思うので、「自分らしさを大切にしていこう」というメッセージを発信することが必要ではないかと思えます。	大学生協として関わることができる機会があると思います。しかし、大学生協が特定の企業を薦めることなく、中立の立場でいられるように、そうすることで学生が安心して使えるような仕組みにしなければならぬと思います。学生は良い話だけでなく、リスクなども知りたいのかなあ、と思いました。		対面授業がだいぶ戻っていると思うが、従来の授業と何か違いがあるのか、など。例えば、これまでは紙媒体でのレポート提出が基本だったが、今では電子ファイルでの提出が基本、のような違いが知りたいです。
学部3年生	3年生でこれから就活が本格化するなかでガクチカについての考え方が自分とギャップがあったので知れて良かったです。	ガクチカがなくて焦っている学生がマルチ商法などのビジネスに巻き込まれないように大学生協として啓発できると思いました。		
大学教員	自身の所属大学でも把握している内容もあるかもしれないが、目下のところ学内において、報告内で触れられた内容が教職員で共有されているという状況ではない。自身にとって今回の報告は、有用な情報とその分析が示されていて、非常にありがたいものであった。	就活生をターゲットにしたカートの動きについては、警戒をされる必要があるように思われた。大学生協の横の繋がりに加えて、学生委員の卒業生から現役学生委員への情報提供など、タテの繋がりが形成できるとよりよいように感じられた。	もちろん自由な意見提示などが妨げられるなどの支障はあるかとも思われるが、ライブアンケートの記載内容を事後的に参照できるとありがたいという希望も抱いている。	
生協役職員	学生さんがどんな情報をどのような方法で得ようとしているのか、欲しているのかを就職活動に限らず理解しようとする姿勢が必要だと感じました。企業が採用段階で「どんな行動をしてきたのかではなく、行動を通してどのような人柄なのか、どんな可能性があるのか」に関心があるというご説明は、その通りだと強く共感しました。	就活における「学生の見守り活動」の可能性は、大学生協にとってあるのではないかと感じました。	突然、参加させていただき、感謝申し上げます。	
生協役職員	人からの情報を活用するとか、「ガクチカ」も特別なものではなく、人と比較してではなく、自分にとってどうかという視点がとても大事だと思いました。	就活の時に自己分析をするかと思いますが、それに使えるソフトがあるので何かの機会に紹介したいと考えています。	学生さんの生の声が聞けたのでとても良い機会になりました。	ノートをどうやってとるか、PCやスマホをどう活用するのか、教科書は電子なのか、紙なのか、など知りたいです。
生協役職員	コロナ禍での就職活動の状況が良く理解できました。	学生たちのリアルな声が聞けて良かったです。	特にありません。	自分は食堂関係での業務なので、食環境についてのテーマがあると良いと感じました。
生協役職員	自分の経験の中で、人間性がわかる話であればよという視点で、「ガクチカ」が理解されれば良い。というスタイルの指導が広く学生に行き渡るような取り組みを広げられれば、素敵だと思う。	学生の状況を結構リアルに聞けたが、学生の座談会があると現状の就活が浮き彫りになると思う。	録画が共有されますか。	就職して活躍している、最近の先輩学生委員の座談会が聞きたい。
生協役職員	日々学生の面接練習を担当させていただいている中で、自分の経験が「ガクチカ」になる、ということに自信を持っていない学生が多いと日々感じておりました。ネットの情報の影響は、先輩や同年代の人と話ができない今の学生にとってはとくに影響が大きいと思います。早い段階で自己肯定感を高めて、「就活を楽しむ」マインドを作れるような環境を提供する取り組みが、生協では必要だと感じました。	学生それぞれが、全く違う側面の話をしているように感じましたが、その実就活を乗り越えるための人とのかかわりに悩んでいるのだな、と感じました。自分の経験では、結構就活は孤独にやるもの、というイメージが強かったので、もっと周りの環境を使っているのだから、ということ、学生に思ってもらえるような言葉は必要だと感じました。	特になし	オンライン講義のいい点と悪い点、学生側の評価、教員側の評価について知りたいです。
生協役職員	貴重なお話しありがとうございました。採用側は、頑張った体験を聞きたいでなく、そこで人柄を聞きたい、すごい体験をしていることではない、体験の大小ではない、人柄、熱意、可能性が採用基準の重視項目についての、やはり学生は理解できていないかと思いました。以前に公務員講座を担当しており、そういう学生もいて、その時に先生がおっしゃっていたように「過去の自分と比べて自分がどうだったかを考えたい」と私のも伝えておりました。多くの学生さんにこのことにもっと気付いてほしいと思いました。	学生さんが、「みんな今、ガクチカを探している。」とおっしゃっていて、ガクチカって何を探しているのかなと思いました。体験を選んでいるのかもしれないと思いました。注目すべき点は、「その先」で、参加したことで学んだことやいつも発言しなかったのに、発言するようになったというような変化、努力かなと思いました。	ありがとうございます。	
生協役職員	ガクチカについて、「企業が求めていること、学生が考えているエピソードに乖離がある」という点は特にたくさん学生の学生に教えてあげたいと思いました。数年前店舗で公務員講座の担当者をしてたころも感じましたが、自分の魅力を言葉で伝えられるようになるには、時間がかかると思います。自分自身を「リーダー」向きじゃないと思っているのに、サークルで部長だった話エピソードをする、という状態から、受講生の話を解きほぐして一緒に整理して…。かつ、「準備できました。」とならないように話す、というのは難しい話ですね。	インタビューシップからマルチ、の話は本当に心が痛かったです。真面目に頑張ろうとしている人を食いつくする人がいることや、そういうマルチでしか稼ぐ方法のない人がいる社会に対して涙が出ました。社会に出る最初の一歩でそんな目にあつたら、どんなに傷つくか、その人自身の美点を損なうようになりませんかように、と思いました。今後、私なりの方法、職場で学生に「焦らないで」「大丈夫」と伝えられたらと思いました。今は書籍商品課で就職書も担当していますが、わたしに何ができるか、誰か一緒に何かしませんかー！と思っています。	松坂先生の貴重なお話しはもちろん、またたくさん学生の話が聞けるようご配慮くださいましたこと、感謝いたします。ありがとうございます。	コロナ以降、授業についていけない学生がどうなっているか、大学などの支援はどうなっているか気になっています。特に自分で規則正しい生活を維持したいいけないコロナ禍に大学生になったみなさんは、対面授業で投稿があった時代よりもリズムの維持は苦勞されていると思います。大学生協に何かできることがないかと思っています。
生協役職員	就活生の不安の根源に、ネットにあふれる情報のなかで身近な人(先輩・友人)からの情報の重要性が上位にある一方で、コロナで人との繋がりが難しい友達同士でも「匂わせ!」という部分がある。また、体験の大きさではない、と言いつつ、記入例をみると、そう思えない、という話になるほど、と思いました。	ありのままの自分らしさをどうやって伝えるか、というお話しについて、「ありのままでは選べないのでは」という自信の無さ(就活の中で失う、を含め)もあるように思います。Liveチャットに記入されていた「体験から考えるのではなく、自分らしさ(強味・特性)をみつめて、それが出来るようになった&発揮された経験、を考える」というアプローチに、なるほど、と感じました。	生協だけでなく、大学生を取り巻く様々な立場の方からのコメントなど、大変勉強になりました。ありがとうございます。	
生協役職員	学生が捉えているガクチカと採用側が聞きたいガクチカからのエピソードで大きく開きがあることを再認識しました。店舗で学生さんのお話を聞いていても確かにガクチカのために語学留学や異文化体験(なまきゅ)となっている方もおり、プログラムを利用したのはいずれにしても、それが本当に学生さんのためになっているのか疑問がありました。相談する場所やほめてもらえる、自信をもらえる場面を生協がどうやっていけるのかを考えなければと思いました。	大学生協が実施しているプログラム(就活に関する)の集客状況などは地区や会員までには情報が下りてきていないのではないのでしょうか？しっかりと宣伝する、地区や全国規模での宣伝方法を模索する必要があると思います。(プログラムの数ばかり増やすのではなく、1つ1つのセミナーやプログラムの集客にもっと力を入れるべきでは？昨年〇〇人の先輩に利用いただきました！などは効果的かと思います)	ライブアンケート初めて利用しました。Zoomのチャットではなく、このアンケートにした理由はなんですか？(批判、ではなく単純にチャットでもよくないか？と思ったので)	ICTアンケートからオンライン授業への満足度が上がっているようです。教員の方はどのように工夫されているのか知りたいです。またオンライン授業を受けるうえで学生にぜひ身につけてほしい力やこいうアクションがほしいなど、先生方が求める学びの姿勢などあれば教えていただきたいです。